



慶應義塾大学グローバルCOEプログラム 論理と感性の先端的教育研究拠点

慶應義塾大学 CARLS 哲学・文化人類学グループ公開シンポジウム

医療人類学の最前線II: 国家、感染、バイオポリティックス

基調講演: Margaret Lock (マッギル大学 医療人類学)

日時: 2009年1月23日(金) 13:00 - 17:30

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 東館GSEC LAB <http://www.keio.ac.jp/access.html>

北米における医療人類学の第一人者であり、日本でも『脳死と臓器移植の医療人類学』、『更年期: 日本女性が語るローカル・バイオロジー』、『都市文化と東洋医学』等の著書で知られるマーガレット・ロック先生をお迎えし、遺伝、国家、新優生学についてお話いただきます。また社会学、歴史学、政治学の観点から、感染とリスク、国家“防衛”、疫学の問題に関して、最新の研究をご報告いただきます。皆様のご参加をお待ちしております。(会費無料、事前登録不要)

Margaret Lock (Dept. of Social Studies of Medicine, McGill University)

基調講演: Genomics and the State: Is an Era of NeoEugenics in the Offing?

美馬達哉 (京都大学 医療社会学・脳生理学)

リスク・パニックとしての新型インフルエンザ

鈴木晃仁 (慶應義塾大学 医学史)

Measles and the Transformation of Spatio-Temporal Structure of Modern Japan

香西豊子 (東京大学 医学史)

「波と粒」 幕末日本における「感染」概念

Peter Doshi (MIT 医療政治学/ History, Anthropology, and Science, Technology and Society)

Counting Sickness: Epidemiology & Its Missing Patients

総括コメント **市野川容孝** (東京大学 医療社会学)

宮坂敬造 (慶應義塾大学 文化人類学)

司会 **北中淳子** (慶應義塾大学 医療人類学)

主催・企画 慶應義塾大学内・相互的感情身体知の文化医療人類学・人間科学研究会

慶應義塾大学 GCOE 「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」文化人類学チーム

<http://www.carls.keio.ac.jp/>

Centre for Advanced Research
on Logic and Sensibility